

089

contents

常設展

フィンランドの美術 -神話が息づく自然の国
ムーミンの世界展 -ヤンソンさんからの贈り物-
年間スケジュール

天花
TENGE
天花



萩割高台茶碗 江戸時代(17世紀)山口県立美術館蔵

常設展

郷土工芸室

「古萩展」

9/13_{sat}～10/5_{sun}

表紙作品解説

萩割高台茶碗 江戸時代(17世紀)

口径14.9cm 底径6.8cm 高9.2cm 山口県立美術館蔵

萩焼の茶碗で、高台(器の脚部)に切れ目が入っているものをよく見かけます。これを割高台といいますが、これは萩焼だけの特徴ではなく、その起源は朝鮮半島の高麗茶碗にあります。元々は高台の内側を削らずに、十字に割ったものでした。時代が経つと高麗茶碗から変化して、今日一般的に見られるような割高台になっていきますが、近年の萩焼の茶碗の中には十字に割った割高台をつくるものもあります。萩焼は、毛利氏の御用窯として江戸時代初期に松本(萩市)、ついで深川(長門市)に開かれましたが、初期には高麗茶碗の形を写したものが造られています。

写真からはわかりにくいですが、この茶碗は円形ではなく、^く番形(不規則な楕円形)にゆがませていますので、沓茶碗といえます。茶人として名高い古田織部(1544-1615)が好んだもので、一般的には美濃焼が知られていますが、初期の萩焼や、唐津焼、高取焼にも見られます。武人でもあった織部が好んだ茶碗は、現代にも通じる斬新な造形ともいえましょう。萩焼の特色である白い^{わらばいゆう}薬灰釉が施された、滑らかでやわらかな器肌に味わいのある古萩の名品の一つです。

(当館学芸員 岩井 共二)

「萩焼垣文筆洗茶碗」江戸時代前期
山口県立美術館蔵

郷土工芸室

「古萩展」9/13～10/5

萩焼は江戸時代の初めごろから生産が始まり、御用窯として多量の製品を生産していたことが知られています。江戸時代を通じてその声価が高まり、茶陶としての評価を高めました。このたびは、江戸時代につくられたいわゆる古萩を展示し、萩焼の歴史と伝統を概観します。

香月泰男室

「シベリア・シリーズI」9/13～10/5

三隅町出身の香月泰男(1911～74)は、シベリア抑留を経験し、復員後その体験を「シベリア・シリーズ」として描きのこしました。当館常設展示では、香月の抑留体験の順を追ってシリーズを紹介しています。今回はシリーズ全57点の中から、応召から抑留までをモチーフにした作品を展示いたします。



香月泰男「雨<牛>」1947 山口県立美術館蔵

小林和作室

「永地秀太の世界」9/13～10/5

下松市出身の洋画家永地秀太(1873-1942)は、明治美術会で学んだ後、太平洋画会の創立に参画、文展や帝展などに出品し、写実的で堅実な画風を確立しました。

このたびは、当館所蔵の静物画、風景画、肖像画を展示し、明治から昭和前後にかけて活躍した永地の画業を概観いたします。



永地秀太「更紗の前」1924 山口県立美術館蔵

資料展示室

「木村伊兵衛」9/13～10/5

戦前、戦後を通じて、日本の写真表現の中心的存在として活躍した木村伊兵衛(1901-74)。小型カメラを駆使したそのスナップ・ショットは、現実の瞬間をストレートにとらえて、私たち日本人の生活を生き生きと浮かび上がらせています。このたびの展示では、1950年代の「秋田」シリーズより当館所蔵の20点を紹介いたします。



木村伊兵衛「大曲」1953 山口県立美術館蔵

神話が息づく
自然の国

フィンランドの美術

2003年7月18日(金) - 9月7日(日)

【開館時間】9:00 - 17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】毎週月曜日 (ただし7月21日は開館、7月22日が休館)

【観覧料】一般1000円 (800円) / 学生800円 (600円) 「ムーミンの世界展」の観覧料を含みます。

()内は前売りおよび20名以上の団体料金 18歳以下、70歳以上の方、高等学校、盲・聾・養護学校に在籍される方は無料

【主催】山口県立美術館、朝日新聞社、山口朝日放送 【協賛】コネ・コーポレーション、フィンランド美術交流基金

【後援】フィンランド大使館、フィンランドセンター、九州朝日放送、広島ホームテレビ

【特別協力】ヘルシンキ市立美術館 【企画協力】トランスフォーム株式会社

Organised by Helsinki City Museum and The Yamaguchi Prefectural Museum of Art



この展覧会は、19世紀から現代までのフィンランドの美術を、
『カレワラ』に代表される神話をキーワードで紹介するものです。

出品作品は、油彩画、版画、写真、ビデオなど89点です。

『カレワラ』は、19世紀中頃のフィンランドの医師エリアス・リョンロットが、それまで語り継がれてきた

神話、英雄伝説、古民謡などを採集し一大叙事詩としてまとめて出版したものです。

初版は1835年に出ました。この叙事詩は、民族的自覚が高まりつつあった当時、

フィンランドの人々の魂のよりどころとなり、

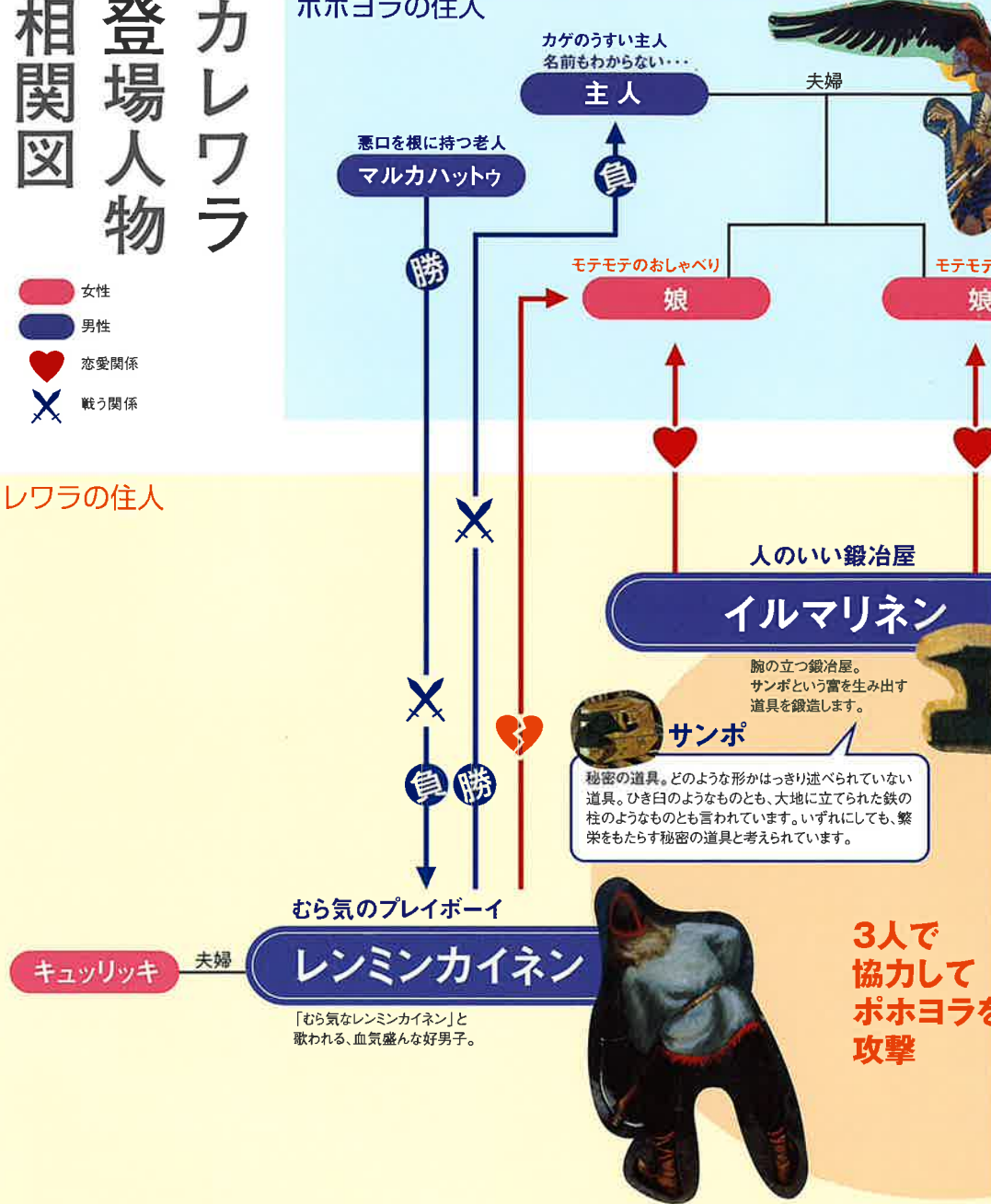
美術・音楽・文学などフィンランド文化に深い影響を与えてきました。

おなじ登場人物といくつかの固有名詞を紹介してみましょう。

カレワラ 登場人物 関連図

- 女性
- 男性
- 恋愛関係
- 戦う関係

カレワラの住人



The Art of Finland: Land of Nature

同時開催!

ムーミンの世界展

— ヤンソンさんからの贈り物 —

「フィンランドの美術 神話が息づく自然の国」展と同時に、

フィンランドを代表する作家トーベ・ヤンソンの描いた

ムーミンの世界を紹介する展示コーナー

「ムーミンの世界展—ヤンソンさんからの贈り物—」を開催いたします。

皆さんおなじみのムーミン村の住人たち。

彼らはきっと、フィンランドの森と湖に今なお神話が息づく

不思議な世界へ私たちを導いてくれるでしょう。



©Moomin Characters™

2003年7月18日(金)ー9月7日(日)

【開館時間】9:00ー17:00 (入館は16:30まで)

【休館日】毎週月曜日 (ただし7月21日は開館、7月22日が休館)

【観覧料】一般1000円(800円)／学生800円(600円)

「フィンランドの美術」展の観覧料を含みます。

()内は前売りおよび20名以上の団体料金 18歳以下、70歳以上の方、高等学校、盲・聾・養護学校に在籍される方は無料

The Exhibition of Moomin World

北の国の女主人・老婆 ロウヒ

北の国ボホヨラ(ラップランド)に住む女主人。彼女の娘を妻にしようと、ワイナミョイネン、イルマリネン、レンミンカイネンは遠くボホヨラまでやってきます。



むこうみずで世間知らずの若者

ヨウカハイネン 兄妹

若き吟遊詩人。どちらが多くの呪歌を知っているか、ワイナミョイネンと競い合って敗れ、妹のアイノを妻に差し出す約束までしてしまいます。

ワイナミョイネンとの結婚がいやで死んでしまう悲劇の乙女

アイノ

悲劇の乙女。兄の勝手な約束で、老人のワイナミョイネンと結婚するはめになった乙女。意にそわない結婚をはかんで、池に身を投げてしまいます。



生まれながらの戦いの英雄

クッレルボ

悲劇の青年。両親の敵に育てられ、鍛冶屋のイルマリネンに奴隷として売り渡されます。たちの悪い悪戯をしたイルマリネンの妻を殺し、両親の敵も殺し、最後は自ら命を絶ちます。



カンテレ

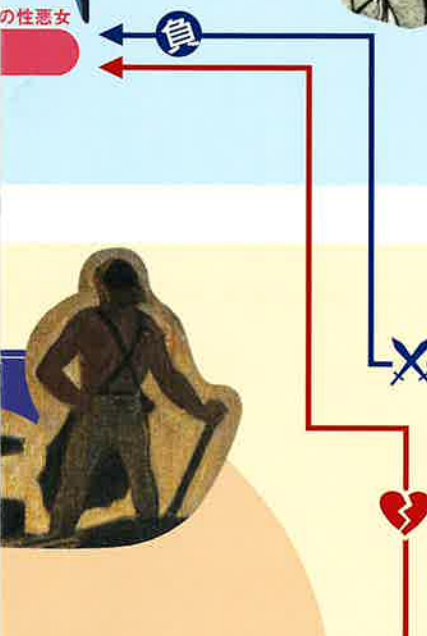
琴のような楽器。最初、ワイナミョイネンが大カマスのおごの骨から作るが、海に落としてしまいます。そこで彼は新たに白樺の木でカンテレを作り、乙女の髪の毛を弦を張りました。



何でも知っている生まれながらの老人 体カバッゲン

ワイナミョイネン

不滅の吟遊詩人。生まれながらの白髪の老賢者。さまざまな冒険をし、カンテレというフィンランドの楽器を作り出した英雄です。



and Living Myth

2003-2004

特別展

4/15～5/25

コレクション101

6/13～7/6

日本伝統工芸展50年記念展

「わざの美」

7/18～9/7

神話が息づく自然の国
フィリアンドの美術

10/2～10/19

第7回やまぐち県民文化祭

第57回山口県美術展覧会

11/11～11/30 山口朝日放送開局10周年記念

生誕250年

旅する女流文人 田上菊舎

12/9～12/14 第56回学校美術展覧会

12/19～2/1

日本近代洋画への道

—山岡コレクションを中心に—

2/5～2/8 山口県立大学卒業制作展

2/12～2/15 山口大学卒業制作展

2/19～2/22 山口芸術短期大学卒業制作展

schedule

山口県立美術館 平成15年度年間スケジュール

常設展

4/1	工芸 コレクション101 シベリアシリーズ コレクション101	西野新川	4/20
4/22		福田翠光・制作の秘密	5/5
5/7		学芸員のイチオシ	5/25
6/8			
6/10			
山口の 伝統工芸		福田勝治	

7/6

7/8～7/17

全館休館

7/18～9/7

ムーミンの世界展

—ヤンソンさんからの贈り物—

9/9～9/12

全館休館

9/13

古萩展

シベリア・シリーズI

10/5

10/7

永地秀太の世界 木村伊兵衛

萩の茶陶

シベリア・シリーズII

戦後日本画の変革

10/28

雪舟と雲谷派

濱谷浩

11/30

11/30

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

12/2

1/12

1/14

桂ゆきの世界 石元泰博

前衛陶芸

現代の木彫

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

2/17

山口県立美術館
The Yamaguchi Prefectural
Museum of Art
〒753-0089
山口市龜山町3-1
TEL: 083-925-7788
FAX: 083-925-7790
<http://www.pref.yamaguchi.jp/kenbi/index.htm>



Information

■休館日

月曜日(月曜が祝日もしくは振替休日の場合は翌日休館)

年末年始(12月28日～1月3日)

7月8日～7月17日、9月9日～9月12日

■開館時間

9:00～17:00(入館は16:30まで)

■料金

常設展: 一般190(160)円 学生120(100)円

()内は20名以上の団体料金

特別展: 別途に定めた料金

常設展・特別展ともに18歳以下と70歳以上および高等学校、

盲・聾・養護学校に在学する方等は無料。

教育文化週間11月1日～11月7日は全ての方が無料。